

赤門の寺 法蔵寺 寺報

# 法蔵

【Houzou】

令和6年 正月号  
発行責任者 真宏 量譽  
法蔵寺 29 世  
電話 0288-21-8220  
開創 636 年

当たり前前? ↓ 「ありがたい」  
…感謝の心に気づく

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年も檀信徒各家の祖霊を祀る菩提寺として護持発展・継承に全力をもち臨みますので、どうぞよろしく願います。

さてこの三年余り私たちの生活を苦しめていた新型コロナウイルスが、感染症法で五類に変更になり、行事や集会などが少しずつ以前に戻りつつあります。法蔵寺でも夏のお盆・施餓鬼法要から本堂で

お参りの方とともに法要をお勤めしました。先日の十夜大法要では多くの方と大数珠練りを行うことができました。感謝無量でした。

コロナ禍の期間、振り返ると残念なことばかりが頭をよぎりますが、見方を変えてみると、この期間があったからこそ物事を見直したり、落ち着いて考えたりしたことができたように思います。  
「整理整頓」は気分を変え、新しい一歩を踏み出すため

に必要です。これまでのこと、これからのことを考えることができたと思うと、コロナ禍をプラスに受け取れるのではないのでしょうか。

\* \* \* \* \*

前回お知らせしましたが、法蔵寺では「樹木葬」を始めました。お墓がない方や継承が難しいと悩む方の受け皿になればと始めましたが、予想をはるかに上回るお申し込みがありました。自分や家族、家のこれからの、悩んでいた方々がそれほど多かったのかなと思います。

「当たり前」が実は当たり前ではないと気づかされたコロナ禍。周りを見回すとそれは行事や仕事に限ったことではないでしょう。親がいる。子がいる。友人がいる。学校がある。明日がある。食べ物や飲み物がある。健康である。命がある。

る：どれも失ってからの難さが分かります。

今、世界各地で戦争が起こっています。報道を見るたびにどれだけ今の自分が恵まれているか感じざるを得ません。仏様は、この世のすべての物事は「有難い」ものであるとお説きになっています。「有ること自体が幸運だ」ということです。

幸運に恵まれたとき、私たちは「うれしさ」と「感謝」の心を持ちます。この自分に起こった「感謝」の心こそが幸せを呼ぶ大切な気持ちなのです。ぜひ今年は、感謝の気持ちで、心穏やかな毎日を過ごされることを祈念しております。

合掌

